

石を飛び越え草木をかいくぐり 71歳荒場を疾走 22センチクラス次々

福井県の日野川

川が煮えれば海産タイプのアユがやる気満々。

福井県南越前町と越前市を流れる日野川(日野川漁協管内)へ22日、この川にゆかりのある名手を訪ねた。小雨の中だったが、22cmを頭に31匹が飛び出た。この川は天然遡上(そじょう)魚に加えて、放流種苗はいずれも海産タイプで、これからが本番。漁協は網入りを昨年に比べて2週間遅らせた。さらに産卵保護のため、下流部の網を禁止するなど積極的な運営。その効果が待ち遠しい。(柳沢研二)

京都の村田さん

小雨の中、大きくサオを曲げて河原を疾走する釣り人。荒瀬を30m下って、流れから躍り出たのは22cm近いアユ。掛かりアユをタモに入れて駆け足で引き舟までダッシュ。頭に乘せた桧笠(がさ)がトレードマークの村田武久さん=京都市。



この日野川沿いが故郷で、シーズンになると週一ペースでここを訪れるという。

勝手知ったる川とはいえ、そのフットワークの良さは71歳とは思えない。ギューとオトリを引いて違う筋に入れると間髪入れずサオが持って行かれた。村田さんはサオを立てたまま下流へまたダッシュ。軽快に石を飛び越え、草木をかいくぐりキャッチ。今度はブロックの上からサオ出しと見ているだけでも疲れそうだ。

それでも、この時期では珍しい22cmクラス

が連発し、「あ～疲れるよ」とうれしい悲鳴の村田さん。体高があつて100g近くありそう。朝の気温は24度で水温20度。雨とはいえ、周囲には誰もいない。「来た～」と絶叫してもOK。

けが防止の笠

そんな村田さんでも、よく転ぶという。頭部を守ってくれるのがこの笠。周囲は自ら補強してあり、クッションの役割を果たすという。「昔から荒場が好きなので、何度もこれに助けられた」と村田さん。次々と移動しながら、テンポよく探る村田さん。黒装束のウエアで小雨に煙る山里の風景にとけ込んでいる。まるで隠密の剣士のように草むらから現れたり消えたりする。狙った場所ではすぐに掛かるのだが、2匹目が出ない。「この天気で追いはイマイチ。魚影も決して濃いとは言えないね」とポツリ。日野川見つめて半世紀以上。黄金期を知っている釣り人の率直な意見だ。「このところ放流魚も琵琶湖産から海産系になったので、水中糸もナイロンから複合メタル0.05号に変えて、自分なりに工夫しているよ」と村田さん。背バリも中ハリスに直結してある。

親子どんぶりも

今季は 57 匹が最高で、一昨年には、この川で尺アユを上げている。「海産系効果だよな。僕も中スポさんのように網入りを遅らせてほしいと漁協にお願いしたんだよ」と村田さん。対応は素早く2週間遅れたので、友釣り師の楽しみは長くなった。

雨中の熱闘は続いた。さらに荒い流れにオトリを滑り込ませると、ズドーンと対岸のアシヘー直線。村田さんはサオを立てたが浮いてこない。「あ〜」という叫び声とともに白泡うずまく流れに消えた2匹のアユ。悔しそうに「でかかったね。実は親子どんぶり3回やっちゃったよ」と笑った。今度は引き抜きが少しそれで草むらへ消えた村田さん。2 匹をタモに収めてにつこり。午後 2 時過ぎ、村田さんの友人・佐々木武夫さん(64)＝越前市＝が訪ねてきた。佐々木さんは暇を見つけては、水中カメラをセットしてアユの生態を研究しているという。



左から佐々木、村田、篠田さん

もちろん友釣りファンで「釣りに役立ちますよ」と佐々木さん。



16～22cm を 31 匹

村田さんは3時に終了して、16～22cm を 31 匹だった。「ダムなどで年々、状況は厳しくなるけれど、この川が僕の故郷。昔からの友達もいっぱいいるので、日野川通いは、ずっと続けるよ。今シーズンはこれからが本番」と話してくれた。あの身のこなしには名手の村田満さんも驚くだろう。「いや別に鍛錬していませんよ。掛ければ年を取っても足取りは軽いよ」と村田さん。なるほど、友釣り師はアユが掛かると、その瞬間だけ身体能力が高くなるのか。この夏も村田さんは日野川を疾走する。

追加放流は海産 500kg 水温 20 度超え活発に

日野川の初期放流魚は漁協で中間育成した海産系人工産 4000kg。5 月に2度あった出水で魚影が薄くなったようでした」と漁協副組合長の篠田裕彦さん(70)。さらに解禁直前に和歌山海産 300kg を投入したがスロー発進。続いて今月上旬には、同海産 200kg を放ち、トータル 500kg の追加放流を行った。

梅雨が明けて水温が 20 度以上で安定し始めると、例年通りに掛かり始めたという。「それまで、どこにいたんだろう。やっぱり歩留まりは良かったようでホッとしています」と篠田さん。

最も濃密に放流されているのは、大門橋から漁協今庄支所にかけてで、比較的、釣果は安定しているという。

さらに越前市の府中橋周辺の魚影が濃いという。「松ヶ鼻えん堤から下流は遡上魚が中心だと思います。意外と武生エリアもいいです」と話していた。

これまでお伝えしてきた「日野川改革」の仕掛け人の1人でもある篠田さん。その効果が待たれる。